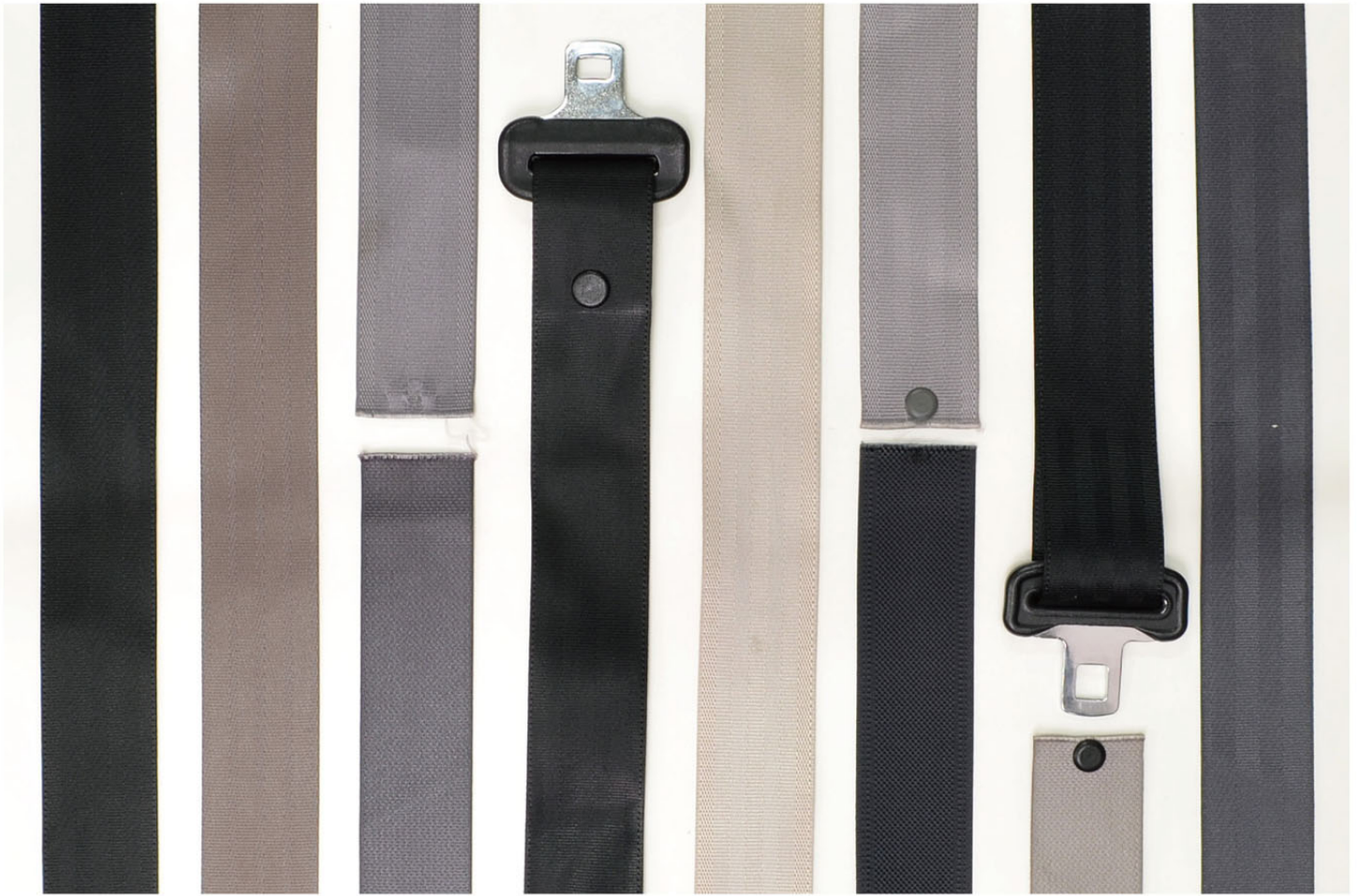


**NEWSED
UPCYCLE
DESIGN
AWARD
2015**

使用可能素材リスト

シートベルト



素材について

自動車リサイクル工場では役目を終えて廃車にされる自動車のおよそ95%がリサイクルされています。

エンジンは取り外されてパーツとして海外に輸出し、タイヤは原料に戻され、ラジエターやマフラーなどもそれぞれが役割をもって再生されています。ただ、安全性にかかわるパーツはリサイクルされず、役目を終えてしまいます。長年、ドライバーの命を守ってきたパーツの多くはスクラップされて鉄ズなどと一緒に燃やされてしまいます。シートベルトの素材としての可能性に注目し手間をかけて取り外していました。NEWSED PROJECTではそんなシートベルトを丁寧に洗浄し、素材として再生しています。

特徴

- サイズは W 約 50mm×H1000~2000mm
- カラーは大きく分けて「黒」「グレー」「アイボリー」「ブラウン」があります。
→ 素材として多く出ているカラーはグレー→黒→アイボリー→ブラウンの順になります。
→ 黒だけでも細かく分けると300種類あると言われてます。(車種によって異なる為)
- 引張強度が3トンあり丈夫ですが、カットするとその部分から解れてしまいます。
→ ヒートカットであれば解れることはありません。
- 毎月数百kg回収されており相当数の供給が可能です。

加工例

- 縫製
- シルクプリント

エアバッグ



素材について

エアバッグはシートベルトと同様、安全性にかかわるパーツのためリサイクルができず役目を終え廃棄されてしまいます。この工場に取り外しのされるエアバッグは一度も使用されることなく、廃車にするためだけに取り外されています。NEWSIED PROJECTではそんなエアバッグを丁寧に洗浄し、素材として再生しています。

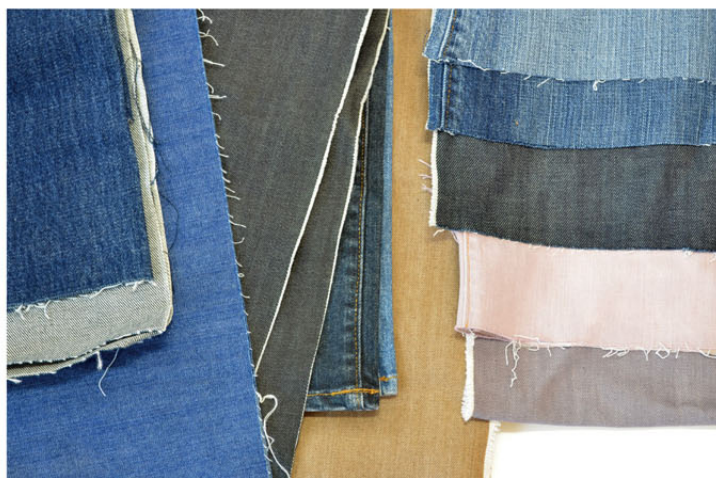
特徴

- サイズは約 W650mm × H650mm (写真の丸型のもの)
- カラーは主に「白」「水色」「ピンク」「グレー」があります。
- 形状は様々でハンドルに取り付けられている丸型のエアバッグや、助手席・カーテンエアバッグなど、四角に近い形状のものがあります。
- エアバッグはガスによって膨らみますため、柔軟性にも優れています。
→ 生地はシリコンでコーティング加工がされているため耐摩擦性や防炎性などの特徴があります。
- 車体から取り外す際はカッターで裁断するため、切りっぱなしの状態になっています。
- 毎月数百 kg 回収されており相当数の供給が可能です。

加工例

- 縫製

デニムスワッチ



素材について

年間数百種類の生地サンプルが作られています。生地となる綿は仕入国の気象状況や経済状況などあらゆる条件を加味したうえでさまざまな国の綿を、混紡し各メーカーの望む最適な綿を作り出しています。綿原産国の出来具合により、毎年割合を変化させて決めています。湿度・温度など少しの条件で綿の織りの風合いや染色の具合が変わってくる上にストーンウォッシュ・ケミカルウォッシュなどの色落ち加工をしたり、経年劣化をみたりと、デニム作りには時間と情熱が惜しみなく注がれます。毎年、各メーカーへ数十パターンを用意し、その年のデニムを決めていきます。情熱が注がれたサンプル生地を無駄にすることなく、余すことなく使っていきたい。NEWSSED PROJECTの企画主旨に賛同し、生地の提供をして頂いています。

特徴

- サイズは約 W300mm × H600mm
- カラーは一般的な青が一番多く、黒・赤・緑・茶・柄ありなど様々です。
- サンプル生地が5~6枚まとめてハンガーに取り付けられています。生地は全て同じ生地で、ウォッシュなどの加工を見比べるために一束にまとめられています。
- 元が生地サンプルなのでカットされ短くなってしまった物もあります。
- デニムの種類はカラーデニムやストレッチ素材など様々です。
- 年間約1トンほど廃棄されています。

加工例

- 縫製
- プリント

ぺっちゃん (箸の端材)



素材について

箸工場にて大量に作られている箸は、写真でも分かるように塗装されていない部分を機械がはさみ、削り出し・コーティング・カットの工程まで行われます。あらかじめ長めに作ってある為、機械が挟んでいる部分はカットの際に端材として大量に破棄されています。ぺっちゃんの名前はカットしたときに「ペッチン！」と聞こえることが名前の由来になっています。

特徴

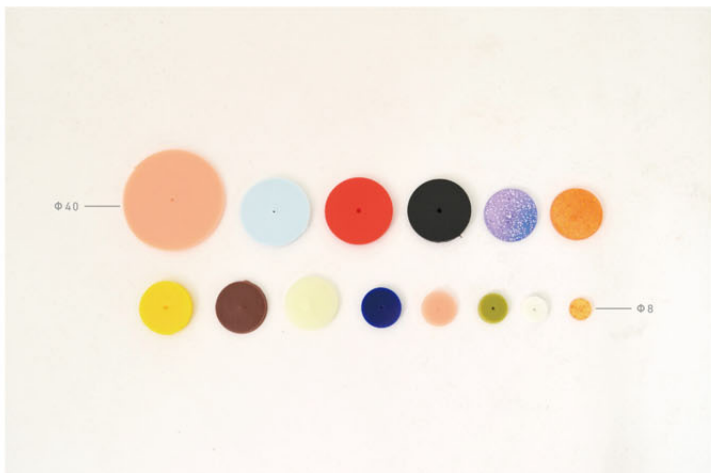
- サイズは約 H45~70mm×W8mm / 素材は主に木材になります。
- 1ヶ月に10トン~20トンのぺっちゃんが破棄されています。
- 塗装の色は様々で、無地で表面コーティングだけされているものもあります。
- 色が付いている部分は箸に塗装する際に塗り足しで、塗られた為です。
- 形状(断面)は様々で供給頂く毎に異なります。主に角丸四角形が多いのですが形状を選ぶことは出来ません。



加工例

- 削り(穴あけ加工)
- 箔押し

ソフトビニール人形の抜きカス



素材について

ソフトビニール人形を製作する際に回転可能な関節を形成するため胴体に手足のパーツを付けるための丸い穴を開けます。単純な接合法ですが丈夫で多少手荒に扱っても、簡単には外れたり破損したりしない仕様になっています。この加工の際に必ず出てしまうのがソフトビニール人形の抜きカスになります。

特徴

- サイズは左上のもので約φ40mm、右下のもので約φ8mm になります。
→製作する人形によって毎回サイズと色は異なります。
→厚みは約0.5mm～約2.8mm まで様々です。
- 形状は丸型のみになります。
→丸く抜く際は、コンパスの要領で穴を開けるため必ず中心に針を刺した穴があります。
- 色は様々で、単色、蓄光、ラメ、マーブルなどがあり肌色の物が一番多く出ています。
- すべてが綺麗に抜かれているわけではなく、バリが残っているものもあります。

加工例

- 打ち具での穴開け加工

メガネフレーム端材



素材について

メガネのフレーム素材として使用されているアセテート生地は1枚の板から刃物を使い1点1点フレームの形状に切り出されています。その際に端材として出ているのがメガネフレーム端材です。製作されるフレームによって端材の形状は様々ですが、一定のパターン（形状）で出ております。年間約1トンの端材が廃棄されておりこの度素材として使用させて頂いております。

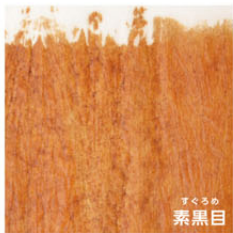
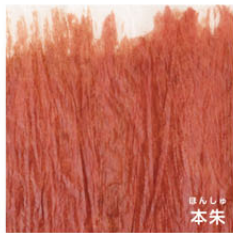
特徴

- 生地の色味は基本暗いものが多いが、透かして見ると様々な色柄があります。
→「赤」「青」「黒」「茶」「べっ甲柄」「マール」など様々です。
- 廃棄されている端材の形状は都度異なります。
→ 量産されるフレームなので一定量は同じ形状で端材が出ますが、作られるフレームの形状によって端材の形状も変わるため都度異なります。
- 曲げても割れにくく柔らかいのが特徴です。フレームを加工する際は熱を加えることで簡単に曲げることが出来ます。

加工例

- 熱を加える事による曲げ加工
- レーザー及び刃物によるカット

漆の濾紙（うるしのこしがみ）



素材について

漆器づくりで使用される漆はウルシの木から採取された樹液から出来ています。加熱をし余分な水分を取り除き、漆の中に残っているゴミを取り除きます。その後、最終工程で細かい不純物を取り除くため濾紙（こしがみ）で濾して初めて漆として使用されます。その工程の中で出てしまうのが「漆の濾紙」で、色ごとに毎月約10枚～30枚程出ており今回素材として使用させて頂いております。

特徴

- 濾紙に染み込んでいる漆の色は大きく分けて4色になります。
→「溜/ため」「本朱/ほんしゅ」「素黒目/すめぐろ」「黒/くろ」。
- 独特の艶があり、漆が染み込んでいるため水も弾きます。また濾し紙独特の透明度も多少残っており背面に手をかざすことで透かして見ることもできます。
- 毎月出る枚数が4色×約10枚～30枚と決まっているため、この枚数の中で商品として展開できるアイデアをお待ちしております。
- 濾紙1枚のサイズは約W300mm×H320mm
(漆が染み込んでいるのはW300mm×H約150～200mm)

加工例

- ハサミでのカットやのりを使用した接着

革のストック生地



素材について

革を使用したバッグや靴など革製品全般の製造を行っている現場では様々な種類・色の革をストックとしています。その中でも長く保管されていて動きのない革のストック生地をこの度、アップサイクル活動を応援している有限会社エヌ・コバヤシのご協力により素材として使用させて頂いております。

特徴

- ストックとして残っている生地なので毎回、色・革の種類・厚みは異なります。
 - 一般的によく見る「こげ茶」「茶」「黒」「白」等落ち着いた色味が多いです。
 - サイズもバラバラで端材からほぼ新品の状態のものまで様々です。

加工例

- ヒートプレス / 熱を加えて生地厚を揃える・革の表面にエンボスの柄を入れる
- 革同士の接着・縫製